

クラックバスターのモルタルでの活用について

建築のモルタル工事でクラックバスターの採用が急増

近年は現場作業の省力化及び左官小屋の設置スペースなどの点から、工場でモルタルを製造し生コン車にて現場に搬入するケースが多くなっている。
また、施工の効率を上げるためにコンクリートと同様にモルタルをポンプ圧送する現場も増えてきている。そのために、流動性に富んだモルタルが使われるようになり、ひび割れ発生リスクが助長されている。さらに、床モルタルでは、有効な伸縮目地を設ける事が難しいこともあり、ひび割れ抑制対策として安価で扱いやすい繊維補強という工法のニーズが高まってきているといえる。既に一部の設計図書では表示されはじめている。

モルタルへの繊維混入手順

- * モルタルへの繊維混入については繊維を袋から取り出して行うこと、及びモノバスター12mmを0.9~1.2kg/m³(1.5~2袋)の量にてご使用いただくことをお勧めします。
- * 生コン車の場合は、シュートなどを利用しドラムの奥へ投入し攪拌する。攪拌時間は3分を目安とし、分散状況を確認(目視)の上必要であれば時間を延長する。
- * モルタルミキサー、手練りの場合は練り混ぜ水に先に繊維を解き、かき混ぜながら徐々にセメント、砂と混合する。攪拌時間は通常モルタル製造と同様とする。